

暮行河堤上  
つつみをゆけば

暮行河堤上  
ゆうぐれどきに  
つつみをゆけば

四顧不見人  
どちらをむけど  
だれひとりなく

衰草際黄雲  
しなびたくさと  
きばんだくもが

感歎愁我神  
このたましいを  
きりきりさせる

夜歸孤舟臥  
よるにはふねで  
よこになれども

展轉空及晨  
ねがえりやまず  
きづけばあさに

謀計竟何就  
わがたくらみは  
どれほどのもの

嗟嗟世與身  
なげきのもと  
このよとこのみ

暮に河堤の上を行く

暮に河堤の上を行き、四顧するも人を見ず。衰草黄雲に際わり、感歎して我が神を愁えしむ。夜孤舟に帰りに及ぶ。展転として空しく晨に及ぶ。謀計竟に何をか就さん。嗟嗟世と身と。

\*韓愈若かりし頃の作。先回りしてこじらせている。白居易のようにもつと肩の力を抜きなよ、と思いながら、一方でこんなふうに眠れぬ夜は確かにあったと思ひ出す。